

# ！ヒューズホルダー 取扱い注意事項

製品を安全にご使用いただくために、一般注意事項とヒューズ管取扱い注意事項をあわせてお読みください。

ご使用に際しましてご不明な点は、お客様相談窓口までお気軽にお問い合わせください。

## ご使用上の注意事項 (1/2)

- 製品仕様をご確認の上、ご使用ください。
- 分解、改造は行わないでください。
- 弊社のヒューズホルダーの定格電流は、以下の条件を基準に定めております。(イ、またはロの方法による)

周囲温度40℃以下

	イ	ロ
ヒューズ管	ダミーヒューズ (銅+Niめっき)	B種ヒューズ管
温度上昇	30K以下であること	65K以下であること
負荷	抵抗負荷	
使用電線	0～ 5A・・・0.5 mm <sup>2</sup> ～ 7A・・・0.75mm <sup>2</sup> ～ 10A・・・1.25mm <sup>2</sup> ～ 15A・・・2.0 mm <sup>2</sup> ～ 20A・・・3.5 mm <sup>2</sup> ～ 30A・・・5.5 mm <sup>2</sup>	

- ご使用に際しては通常30%以上の電流ディレーティングが必要です。  
例：負荷電流7A、使用ヒューズホルダーの定格10A
- ご使用の際には実装機器での通電および短絡試験等、作動確認を十分に行った上でご使用ください。
- 弊社のヒューズホルダーは航空機器、医療機器等の極めて高度な信頼性が要求される機器への使用を意図したものではありません。ご使用になる場合は、事前に別途ご相談ください。
- 使用ヒューズ管は、必ずヒューズホルダーに適合するヒューズ管をご使用ください。不適合サイズでのご使用は、接触不良や焼損の原因となります。特にφ6.4×30mmとφ6.35×31.8mmとは混同しやすいのでご注意ください。
- 使用周囲温度は原則として-5℃～40℃です。この範囲でご使用ください。
- ヒューズ管の脱着は感電防止のため、必ず電源がOFFの状態で行ってください。また、脱着時にごみ等が入り込まないようにご注意ください。
- 筒型ヒューズホルダーの製品には底部端子が可動するものがあります。(F-4000-A等)  
これらの製品に関しては、接続電線に余裕を持たせてください。特に束線等により端子の動きを妨げないようにご注意ください。回路瞬断、不導通となり、焼損の原因となることがあります。このことから配線に単線はご使用にならないでください。
- ご使用になるときは、ヒューズ管が確実に装着されていることを、必ずご確認ください。
- 筒型ヒューズホルダーのツマミは、ねじ式のものには必ず最後まで締まっているかご確認ください。また、パイヨネット式のツマミは完全に本体側に装着されていることをご確認ください。  
また、パイヨネット式のものにはツマミが上から押されない位置に取り付けてください。ツマミが押されると回路の瞬断、接触不良、焼損の原因となることがあります。
- 製品によって、溶剤や油類に弱い性質のものがあります。場合によってはクラックや割れが発生することがありますのでご注意ください。
- 中継タイプのヒューズホルダーは下図のように正しい配線をしてください。(F-800、F-810は除く)



- 中継タイプのヒューズホルダーをご使用の際は、リード線に張力を加えないでください。回路瞬断、不導通となり、焼損の原因となることがあります。
- 筒型ヒューズホルダーの底部端子にはんだ付けをする際は、フラックスおよびはんだが内部に流入しないよう向きや量にご注意ください。
- はんだ付け作業は、ヒューズ管が入っていない状態で行ってください。
- 結線がねじ締め方式の場合は、振動や使用環境の温度変化等により、ねじ締め付けに緩みが発生し発熱の原因となることがあります。定期的に増し締めを行ってください。

## ご使用上の注意事項 (2/2)

- 筒型ねじ式の場合には、文字位置は必ずしも寸法図に記載されている通りにはなりません。方向を確実にするには、筒型パイオネット式からご選択ください。
- ヒューズ管の口金は清浄な状態にしてヒューズホルダーに装着してください。特に口金に素手で触れることは避けてください。
- ヒューズホルダーはツマミを外した際、内部の部品を汚さぬよう、また、異物が入らぬようにしてください。
- 一部の製品でツマミを外した際に「接触片」が露出するものがあります。これらのものは「接触片」を汚さぬよう、また、変形させぬよう注意してください。接触不良、異常発熱、焼損等の原因になります。(F-115、F-400、F-500、F-600等)
- 横型のヒューズホルダーは、特にヒューズクリップを素手で触れて汚さぬよう、また、変形させぬよう注意してください。接触不良、異常発熱、焼損等の原因になります。
- 横型のヒューズホルダーは、ヒューズ管を挿入する際、必要以上に押し込まないでください。ヒューズクリップの変形により接触不良、異常発熱、焼損等の原因になります。
- ナットでパネルに固定するタイプのもは、パネルの厚さによりパネルと端子間の絶縁距離が変化します。特に金属ナットのもはヒューズホルダーが組み込まれる機器が必要とする絶縁距離を確保するよう十分ご注意ください。
- ご使用電圧・電流に合わせた製品の取り付け（絶縁距離の確保）、接続電線、プリント基板の銅箔パターンを考慮してください。
- ヒューズ管の取り外しは、こじらず真っ直ぐに行ってください。
- 各製品は全て屋内使用を目的として設計されております。屋外でのご使用、保管はできません。
- 直射日光の当たる場所、結露や氷結の発生する場所でのご使用、保管は避けてください。
- 振動や衝撃が加わる環境でのご使用、保管は避けてください。
- 高温、低温、多湿、塵埃等の多い環境や水、各種油、薬品（洗剤含む）、腐食ガス等がかかるような環境でのご使用、保管は避けてください。
- 詳細については、最新の図面、仕様書等ご請求の上、ご確認ください。本内容と個別の図面、仕様とが異なる場合、個別の図面、仕様が優先されます。